マタイ 5:43-48「愛敵の心」

あなたがたも聞いているとおり、「隣人を愛し、敵を憎め」と命じられている。しかし、わたしは言っておく。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。あなたがたの天の父の子となるためである。父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるからである。自分を愛してくれる人を愛したところで、あなたがたにどんな報いがあろうか。徴税人でも、同じことをしているではないか。自分の兄弟にだけ挨拶したところで、どんなに優れたことをしたことになろうか。異邦人でさえ、同じことをしているではないか。だから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい。

わたしたちは今日こうして聖別会を過ごしておりますけれど、聖別会、これは、わたしたちが聖別せられるための集会。神様はわたしたちを聖めてくださる。その聖めてくださる神様に、わたしたち自身をおささげするつどい。これが聖別会であります。

神様がわたしたちを聖めてくださるんだという。今日の聖書でイエスさまが「あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい」と言うておられます。ここでは、聖められるということが、完全な者とせられる、という表現で示されております。

で、完全な者とせられるとは、どういうことか。「敵を愛し、迫害する者のために祈る」んだという、これが聖められた人、完全にせられた人の姿であります。

もちろん、「敵を愛し、迫害する者のために祈る」というようなことが、わたしたち生身の人間の努力や修養で出来るものじゃありません。この点、わたしたちは無力です。この無力を自覚するという、自分の無力を自覚することが、罪を自覚するということでしょうけども、「敵を愛し、迫害する者のために祈る」というのは、逆立ちしたって出来ないことである。これは、どうしても超自然的の力を要することである。上から来るところの力を受けなけりゃならない。この上から来るところの力、超自然的の力です。この超自然的の力を受けなきゃできない。この超自然的の力を、いったいどうしてわたしたちは受け取れるのか。それはまったく主イエスキリストという生きたご人格を通して、わたしたちは超自然的の力を受け取るんであります。

１　淵田美津雄中佐

むかし淵田美津雄中佐という方がおられた。淵田中佐は海軍航空隊の隊長として昭和１６年１２月８日の真珠湾攻撃を指揮した人ですけども、見事に爆撃が成功しまして、アメリカ太平洋艦隊が次々と炎に包まれて行く。淵田中佐はモールス信号で「トラ・トラ・トラ」と打電しまして、これは「我レ奇襲ニ成功セリ」という意味であります。こうして太平洋戦争の火ぶたが切って落とされ、四年間にわたって日本人とアメリカ人が血で血を洗うむごい戦いを繰り広げたわけですけども、その結果は昭和２０年８月１５日の日本側の無条件降伏となりました。

戦争に負けた日本にあって、淵田中佐は戦犯拘置所に戦友たちを訪ねて歩いた。共に戦った友の多くが戦争犯罪人として訴追されて囚われの身となってたんです。訪ねた先の戦犯拘置所で淵田中佐は不思議な話を聞いた。こういう話です。年若いアメリカ人の少女がしきりに戦犯拘置所を訪ねて来ては、日本人である収容者たちに大変親切に世話を焼いてくれる。アメリカ人の少女がなんでそんなにしてくれるのか、みんな不思議がった。それである日わけを少女に聞いてみた。すると少女はこう説明した。少女はキリスト教の宣教師であるご両親と一緒にフィリピンに住んでいた。そこへ日本軍がやってきてフィリピンを占領した。宣教師のご両親と少女は難を避けるため山奥に引っ越した。やがてアメリカ軍が上陸して来てフィリピンが奪い返されそうになった。日本軍は山奥に退却して来て、そこでもって一家は見つかってしまった。「おまえたちはアメリカのスパイだろう」という嫌疑でご両親は逮捕され、即決で銃殺刑に処せられることになった。日本兵が一列に並んで銃口を向けたところへ、ご両親が言った。「聖書を読んでお祈りする時間を３０分だけください」　「いいであろう」ということで、許されて３０分間聖書を読んで、ご両親はその信ずる主イエスキリストに祈りをささげた。それから、少女の見ている前でご両親は銃殺されたんです。その晩、少女は泣いて泣いて、心は日本人への憎しみであふれ返っていた。だが、あの３０分間、お父さんとお母さんは何を祈ったんだろう。そこへ思いが及んだ。あの主イエスキリストが十字架へかけられた、その十字架上で祈られた祈り、「父よ、彼らをお赦しください。彼らは自分のしていることがわからないのです」という主イエスの祈りを、お父さんとお母さんが自分の祈りとして祈ったのは間違いないことだった。そこで少女は、ああ、わたしもお父さんとお母さんと同じに、イエスさまの心をおのれの心としなくちゃいけない。そう気づいたというんであります。わたしはだから、そういうわけで、いまこうして戦犯拘置所を訪ねては、日本人に奉仕してるんですよ、という。

この話を聞いて、淵田美津雄中佐はすっかりたまげてしまった。それが、人間の考えの到底及ばない世界に思えたからです。

やったらやりかえせ。これが人間の通常の世界である。人間の通常の世界であるという、これがまた、われわれ人間の限界である。だが、限界をつき抜けて、上から降って来るところの力がある。この超自然的の力は、キリストの十字架からほとばしり出て来る無限の愛の力であります。このキリストの愛を心のうち深く受け取るとき、人は変わることができますし、事実変わるのです。

２　ジェイコブ・デシェイザー二等軍曹

やったらやりかえせ、という。これでもって昭和１７年４月１８日にアメリカは日本への最初の爆撃を実行した。アメリカの空母ホーネットに陸軍の双発爆撃機Ｂ２５を載せまして、策敵線をかいくぐって日本列島に接近した。飛び立った１６機のＢ２５ドゥーリットル爆撃隊は、東京、川崎、横須賀、名古屋、四日市、神戸に爆弾を落として、そっから日本海を飛び越えて、中国へ脱出を試みた。しかし燃料が尽き、パラシュートで中国に降下した搭乗員は全員、日本軍につかまってしまいました。

第１６番機の爆撃手として名古屋を攻撃したしたジェイコブ・デシェイザー二等軍曹もまた逮捕され、戦争犯罪人として終身刑を言い渡され、東京と中国の収容所で三年以上も禁固刑をくらった。禁固の独房の中で、デシェイザー軍曹もまた、日本人への憎しみで心をたぎらせていた。だがやがて、なぜ人類は憎み合い滅ぼし合うのか、という疑問へ思いが及んだ。そこで、聖書を持ってる仲間から三週間だけ聖書を借りて読んだ。読んでるうちに、あの主イエスキリストが十字架へかけられた、その十字架上で祈られた祈り、「父よ、彼らをお赦しください。彼らは自分のしていることがわからないのです」という主イエスの祈りに、心を打たれた。ああ、おれは、イエスさまの心をおのれの心としなくちゃいけない。そう気づいた。イエスキリストを救い主と信じ、クリスチャンになった。それからは、収容所の看守に敬意を払って接するよう心がけた。すると、看守もデシェイザー軍曹に敬意を払って接するようになった。戦犯収容所の看守と戦争犯罪人という、敵同士の間に生じた友情であります。

戦争が終わってデシェイザー軍曹はアメリカへ帰って大学で勉強し、宣教師となって、日本人にイエスキリストの福音を伝えるために、再び日本にやって来た。昭和２３年であります。宣教師となったデシェイザー軍曹は日本語でもっ

て「わたしは日本の捕虜だった」と題するトラクトを書いて配った。その配られたトラクトの一枚を渋谷のハチ公前で受け取ったのが、あの淵田美津雄中佐だった。

「敵を愛し、迫害する者のために祈れ」という、敵を愛する心、愛敵の心。人間の通常の世界であったら到底不可能な愛敵の心。それが主イエスキリストの十字架の救いによって可能とせられるのだという。しかもその救いは机上の空論ではない。あのご両親を日本軍に殺されたアメリカの少女は、救いがほんとうであることを証ししている。ドゥーリットルの爆撃手デシェイザー軍曹は、救いがほんとうであることを証ししている。この救いに打たれた淵田美津雄中佐は主イエスキリストを救い主と信じてクリスチャンとなり、さらに献身して牧師となった。

３　十字架の愛の力

淵田中佐とデシェイザー軍曹は昭和２５年に会いまして、以来二人は無二の親友となり、二人一緒にアメリカ各地を回って主イエスキリストの福音を証しし、宣べ伝えた。その宣べ伝えたのは、これであります。

あなたがたも聞いているとおり、「隣人を愛し、敵を憎め」と命じられている。しかし、わたしは言っておく。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。あなたがたの天の父の子となるためである。父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるからである。自分を愛してくれる人を愛したところで、あなたがたにどんな報いがあろうか。徴税人でも、同じことをしているではないか。自分の兄弟にだけ挨拶したところで、どんなに優れたことをしたことになろうか。異邦人でさえ、同じことをしているではないか。だから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい。

主イエスキリストは、不完全なわたしたち、欠け目だらけのわたしたち、間違いだらけのわたしたちのために、十字架についてくださった。「父よ、彼らをお許しください。彼らは自分がしていることがわからないのです」と主イエスは祈ってくださった。わたしたちのために祈ってくださった。この主イエスの十字架から、愛の力があふれ出てまいります。敵を愛することが到底不可能であるという、狭い限界に閉じ込められてるわたしたちの上に、この十字架の愛が注がれてまいります。上よりの力、超自然的の力であります。この主イエスの

愛、十字架の愛を、わたしたちが心のうち深く受け取るとき、奇跡が起こります。罪は赦され、わたしたちは変えられます。「敵を愛し、迫害する者のために祈れ」という、この到底不可能と思えることが、できるように変えられます。それは決して机上の空論ではない。あのアメリカ人の少女が、デシェイザー軍曹が、淵田美津雄中佐が、目に見える証しであります。どうかわたしたちも、今日この身の上に、同じ奇跡を体験したいものであります。